

てくてく
古道を歩こう

第2回

み ゆ き み ち
御幸道

石和編



笛吹市教育委員会

文化財課主催

「おみゆきさん」とは？

「おみゆきさん」は、一宮^{いちのみや}浅間神社、二宮^{ふたのみや}美和神社、三宮^{さんのみや}玉諸神社が合同で甲府盆地の西端の竜王三社神社まで出向き、信玄提^{しんげんつつみ}で甲府盆地の水防祈願^{かわよけ}（川除の祭事）を行う大神幸祭^{おみゆきさい}のことです。毎年4月15日に行われる大祭で、甲府盆地に春の訪れを知らせる祭りとして多くの人に親しまれて来ました。

古くから甲斐一国の公祭として盆地中を水害から守るために執^とり行われてきました。江戸期には十万石の格式と言われ、行列は槍や薙刀^{やりなぎなた}、鉄砲^{てつぽう}などで厳重に警固され、その壮大さは「宝暦の絵巻」などによりうかがい知ることができます。

この三社合同の神幸は明治7年に一旦廃止され、一宮単独で行われてきましたが、平成15年に復活しました。川筋の変還や交通事情などにより、神幸の経路も変動が見られます。色とりどりの単衣^{ひとえ}を着て、紅白粉の担ぎ手^{べにおしるい}が「ソコダイ、ソコダイ」の掛け声とともに練り歩く華やかな神輿行列は盆地の春の風物詩となっています。

※神幸は遷宮や祭礼に際しご神体が神輿などにのって、神殿や御旅所・祭場に渡^{とぎよ}御することをいいます。



ちかつていほう 1. 近津・堤防跡

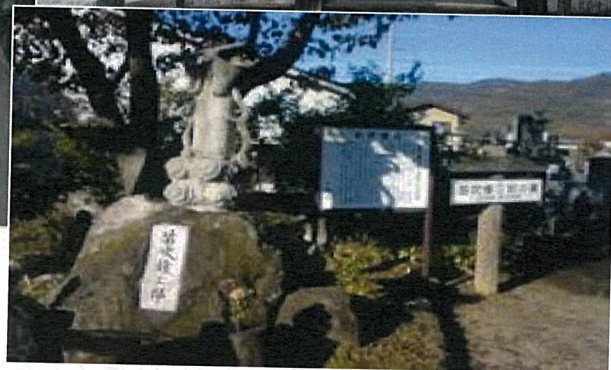
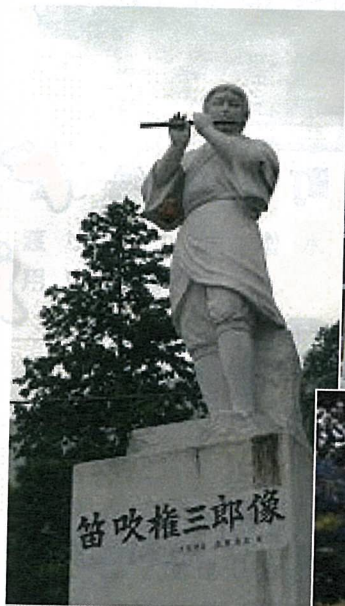


甲府盆地を守る三大堤防の一つ。

明治40年の大水害で決壊し、笛吹川が現在の流路となりました。

ちょうけいじ 2. 長慶寺(春日居町小松)

このお寺には笛吹川の名前の由来となった母親思いの孝行息子・笛吹権三郎の墓があり供養されています。



3. 甲斐奈神社 (春日居町国府)



甲斐奈神社は、
「甲斐奈」を社名とする神社です。
山梨県内には三ヶ所あります。
かつて一の宮・二の宮の神興がこ
こに立ち寄ったといわれています。



4. 石和温泉足湯ひろば



(石和町川中島)



2007年にオープンした3つの足湯と手湯（いやしの湯・さとの湯・わかがえりの湯）が楽しめる施設です。

※利用料金は200円（タオル付）となります。

※ポイント！！

石和温泉を見守る「すこやか観音」
「心洗お湯かけ地藏」を見つけてください。

(3)



5. ^{さんのみやかわけぼ}三ノ宮川除場（石和町）

ここは笛吹川近津より引き入れた水を国玉方面への農業用水に分水するところで、玉諸神社の川除神事が行われたところです。

※玉諸神社（たまもろじんじゃ）は甲府市国玉町社伝によると、もとは酒折宮北方の御室山山上に祀られていたとされています。その後、日本武尊が東征の岐路において水害防止として現在地に珠を埋め、その上に杉を植え、依り代として国玉大神を祀りました。すると洪水は鎮まったことから、のちに社が築かれました。また、周辺の「国玉（くだま）」の地名は当社に由来しているそうです。

6. ^{いさわかし}石和河岸 = ^{ふなつきぼ}船着場

石和河岸と西側の（甲府市）川田村との間には、渡し舟が運行していました。冬場の渇水期は仮橋を渡しましたが、増水する夏場は徒歩^{かち}渡しや渡し舟を利用しました。

石和河岸からは、笛吹川を下って年貢米や物資を富士川の船着場に送る船便も運行していました。

また、甲州道中は江戸からの身延参詣^{さんけい}の人たちが通う道としても利用されました。十^{じっ}辺^{ぺん}舎^{しゃ}一^い九^っらの「甲州道中記」に、石和から富士川まで船で下り、身延山に参詣する様子が記されています。

※徒歩渡しとは、人足に肩車をしてもらったりして川を渡る方法をいいます。

いさわはちまんじんじゃ 7. 石和八幡神社

「武運の神（弓矢八幡）」八幡信仰の厚い源頼朝が鎌倉幕府を開くと同時に八幡神を鶴岡八幡宮に迎え、頼朝に仕える御家人に対して自らの領土へ勧請するよう推進しました。これによって幕府創建の功績を認められ、甲斐国守護職に任ぜられた武田家5代目当主、信光（石和五郎信光）により鶴岡八幡宮から勧請合祀し国衙八幡宮と改め、のち石和八幡神社（別称：石和八幡宮）と称しました。永正16年（1519）武田信虎（信玄の父）が躑躅ヶ崎館に居館を移すまで320年間、武田家を宗家とする甲斐源氏より厚く崇敬され、射法相伝の儀式は当社ですべて執り行われたと伝えられています。

春季例大祭には、**流鏝馬神事**が奉納されます。



※ 見てみて！

八幡宮の「八」は鶴岡八幡宮にちなんで鶴の形になっています。



※ 見てみて！！

どちらが右大臣で、どちらが左大臣でしょうか？

いさわほんじんあと 8. 石和本陣跡

宝暦 11 年（1274 年）から天保 5 年（1834 年）の 164 年間に、延べ 174 人の大名らが参勤交代^{さんきんこうたい}などで休泊したそうです。

明治 13 年（1880 年）の火災で焼失し、現在は土蔵^{どぞう}を残すのみとなっています。



いさわじんや ★石和陣屋（石和代官所跡）

寛文元年（1661 年）に開設され、支配下の村から年貢を集め、犯罪を取り締まるのが主な任務でした。

現在跡地には石和南小学校が建っていて陣屋は残っていません。校門の左手に石和陣屋跡の石碑が建っているだけです。陣屋の門は八田家に移築されています。



うかいざんおんみょうじ 9. 鵜飼山遠妙寺

文永11年(1274年)、日蓮上人は法華經^{ほけ}を広めるために甲斐国を巡り歩き、その途中で石和に立ち寄りました。ここで鵜飼の亡霊に会ったため、弟子に三日三夜にわたり、法華經八巻の一字を石に書写させ川底に沈める川施餓鬼(かわせがき)供養を行ったところ、鵜飼の亡霊は安らかに成仏することができました。その時に造ったお墓が遠妙寺の起源となっています。現在の石和の鵜飼の始まりです。



おんみょうじ きょうせき ※ 遠妙寺の経石!!!

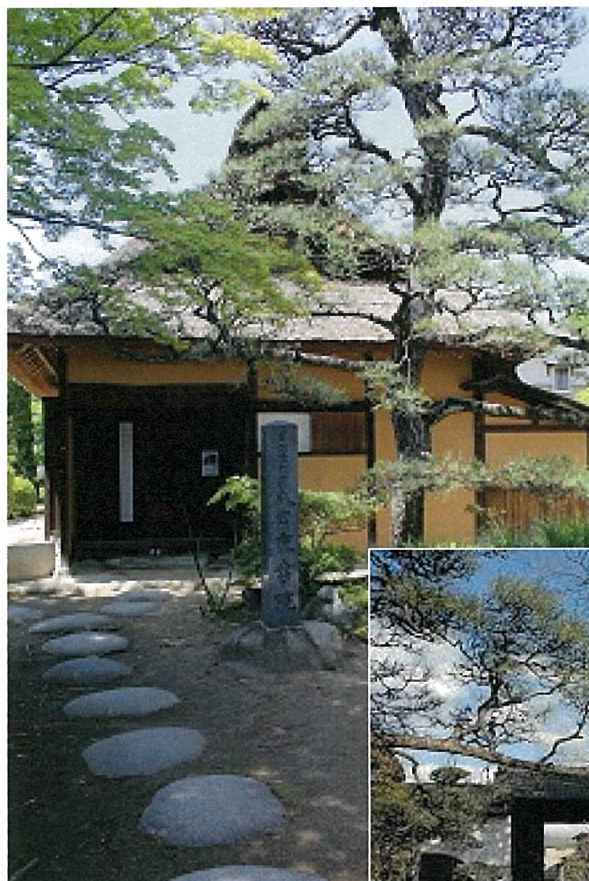
遠妙寺に伝わる経石(きょうせき)は、一字一石経(いちじいつせききょう)と言い、一つの小石に経文を一字ずつ書いたものです。

一字一石経は、鎌倉時代に始まり江戸時代に盛んになった風習で病気を治したり、農作を願ったり、靈魂を鎮めたりする目的で行われました。

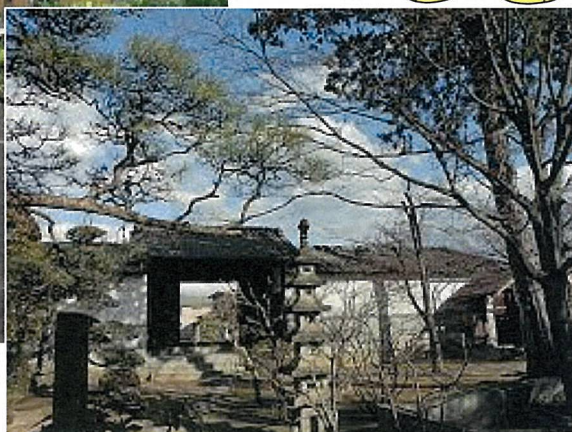
10.山梨県指定文化財建造物

はった けしゅいん はったごしゅいんやしき 八田家書院・八田御朱印屋敷

八田家書院は昭和 36 年に有形文化財（建造物）、御朱印屋敷は昭和 44 年に史跡としてそれぞれ山梨県指定文化財となりました。



お雛様の時期は昔のお雛様が展示されたり、端午の節句には、武者飾りや金太郎人形が展示されたりするよ！



MEMO



てくてくコース

注意：出発前は必ず準備運動をしてからにしましょう。

★スタート地点

1・近^{ちかつ}津、堤防跡…2・長^{ちようけいじ}慶寺

(春日居町小松トイレ有)

3・甲斐^{かい}奈^な神^{じん}社^{じゃ}(春日居町国府・トイレ有)

4・石和温泉足湯ひろば

(石和町川中島・トイレ有)

5・三ノ宮^{さんのみや}川除^{かわよけ}場(石和町)

6・石和河岸^{いさわがし}=船着^{ふなつき}場…7・石和八幡^{いさわはちまんじんじゃ}神社

(石和町市部)

8・石和本陣^{いさわほんじんあと}跡…9・鵜飼^{うかい}山^{ざん}遠^{おん}妙^{みょう}寺^じ

(石和町市部・トイレ有)

10・八田家書院^{はったけしよいん}、八田御朱印^{はったごしゆいん}屋敷^{やしき}

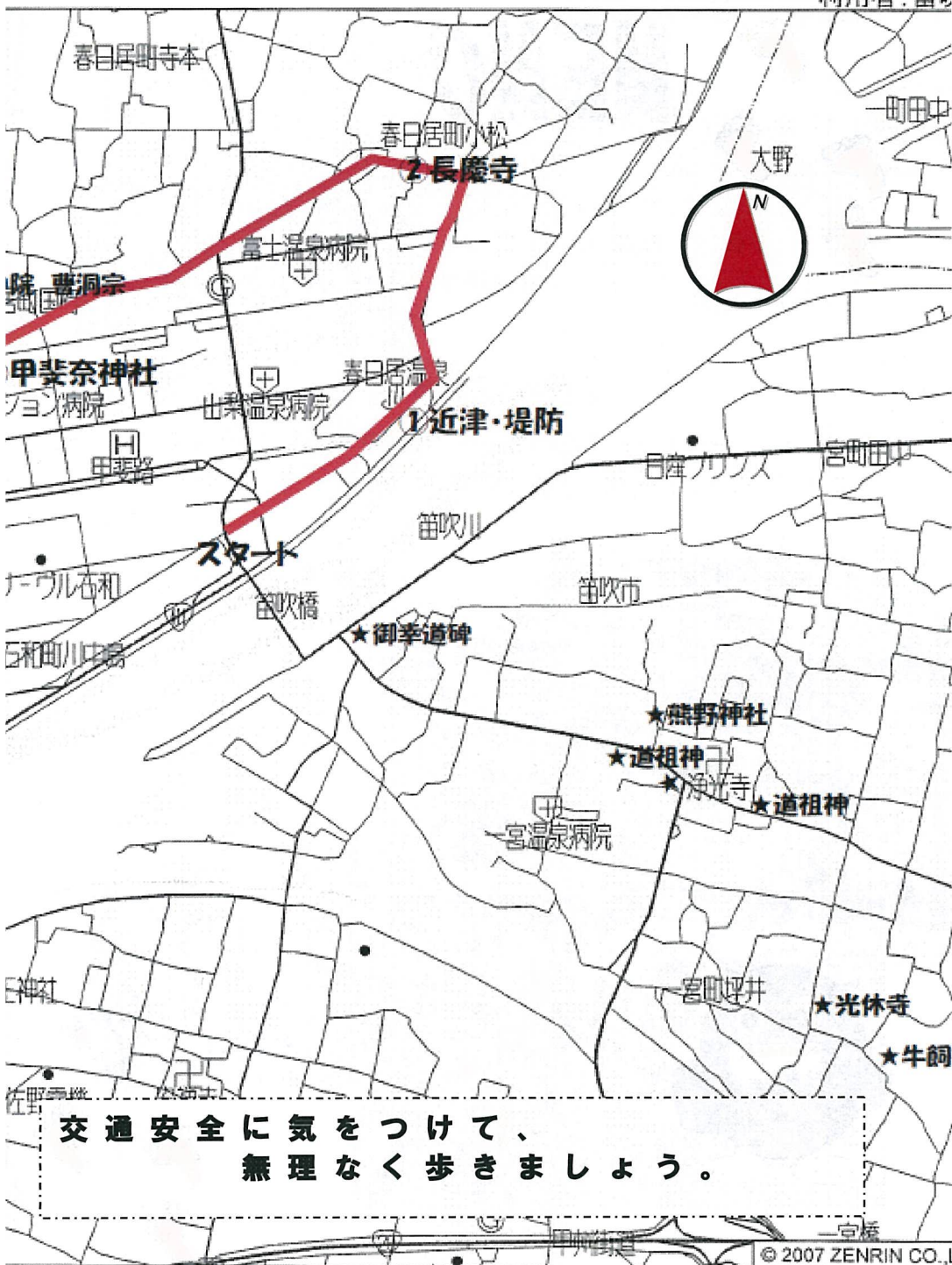
(石和町八田・トイレ有)

★ゴール・八田御朱印公園



集合場所
(石風前駐車場)

⑦八幡神社⑧石和本陣跡



交通安全に気をつけて、
無理なく歩きましょう。

縮尺 1 / 12,500

375m

© 2007 ZENRIN CO.,L

平14総使、第396



MEMO



道祖神について

自分の町の道のあちらこちらにある道祖神に気づいていますか？

道祖神は、路傍の神です。集落の境や村の中心、村内と村外の境界や道の辻、三叉路などに主に丸石や石碑、石像の形態で祀られる神様です。

村の外から村の中に邪悪なものが入ってこないように守っている神様です。



ぜひ、自分の身近な場所の道祖神を探してみてください！！

今日歩けなかった場所にもたくさん
の見どころが石和にはあります！ぜひ
機会がありましたら、また歩いていろ
んな発見をしてみてください。



～古道を歩いて学ぼう～

第 2 回

御幸道

石和編

笛吹市教育委員会文化財課

TEL 055-261-3342

END